

読書活動だより.72

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1
静岡県立中央図書館内
TEL 054-262-1246



「どんぐりひろば」

静岡県読書推進運動協議会理事
静岡県立中央図書館長
赤石 達彦

子どもたちは、小さな頃から本に親しむことで、言葉を覚え、表現力を磨き、豊かな感性と想像力を育むことができます。

そして、様々な本との出会いを重ね、多くの知識や多様な価値観に触れ、人や社会との関わり方を考える中で自らの価値を見だし、いろいろな意味で満たされた幸せな人生を送れるようになるのではないかと思います。

県教育委員会では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」やこれに基づく「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ、平成16年に「静岡県子ども読書活動推進計画－第一次計画－」を策定し、今年度、第三次計画である「本とともだち」プランの後期計画に向けた見直しを行いました。

この計画では、乳幼児期から成人期まで県民一人一人が生涯を通じて読書を楽しむ「読書県しずおか」の構築を目指すことが謳われ、家庭、地域、学校を通じ社会全体でこれを実現するための取組を進めることとしています。

当館においても、子どもたちが本を読むことが好きになり、本を読み続ける習慣を身に付けることができるよう、様々な事業を行っており、その中の一つが「どんぐりひろば」の設置、運営です。

令和2年10月、グランシップにあった「えほんのひろ

ば」を当館に移し、新たに子どもコーナー「どんぐりひろば」として開設しました。「えほんのひろば」では、文字どおり絵本だけを置いていましたが、「どんぐりひろば」では児童文学などの読み物や図鑑などの知識の本も加え約9,000冊を排架し、より幅広い年代の子どもたちを対象としたサービスを提供しています。

また、定期的に「おはなし会」も行い、そこでは「読み聞かせサポーター」の皆様のお力をお借りしています。毎回工夫を凝らした楽しい会を作り上げて下さっており、感謝の念に堪えません。

うれしいことに、絵本以外の本を置いたことによる影響からか、お父さんと一緒に本を手取る子どもたちの姿が多く見られるようになりました。「おはなし会」を楽しみに足しげく通ってくださる方もいらっしゃいます。

私は、皆様に気持ちよく当館をご利用いただいているかを確かめるため、できる限り館内を巡るようにしており、その際「どんぐりひろば」に立ち寄ることを楽しみにしています。親子で寄り添いながら本を読んだり、読みたい本を探している姿は、本当に微笑ましく心を癒やしてくれます。ここに来てくれた子どもたちが、本を読むことを通して健やかに成長してくれることを願ってやみません。

《内容紹介（もくじ）》

- ◎巻頭言…………… 1
静岡県読書推進運動協議会理事 赤石 達彦
- ◎令和3年度 優良読書グループ紹介…………… 2～3
★(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)
三島市立図書館音訳ボランティアグループ(三島市)
★静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)
お話キャラバン(静岡県)

- どんぐりころころ(伊東市)
- Peek-A-Boo(静岡市)
- はらぺこあむしのおはなし会(河津町)
- ◎静岡県図書館大会 第2分科会報告…………… 3
- ◎静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会報告… 4
- ◎静岡県読書推進運動協議会 推薦図書…………… 4

令和3年度 優良読書グループ紹介

(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)

【三島市立図書館音訳ボランティアグループ(三島市)】

平成9年に三島市立図書館音訳ボランティア養成講座を受講後、三島市立図書館音訳ボランティアグループとして活動を開始しました。

現在まで24年間に渡り、三島市立図書館で音訳図書の作成を続けています。音訳図書を作成するにあたり、資料の読みを調査、音訳作成、校正と資料の完成まで、根気と正確さを必要とする作業を長年にわたり続けています。資料の作成は、全文の読み方の調査と処理を行い、図書館の録音室で録音と編集をします。その後、他の者が1次校正、2次校正を行います。当初はカセットテープにアナログ録音していましたが、現在はCDにデジタル録音しています。完成した音訳図書は図書館に登録され、サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)、国立国会図書館による視覚障害者等用データの収集および送信サービスにより全国の視覚等障がいのある方に提供されています。

現在は32名で活動が続け、新規ボランティアの養成講座も継続して実施しています。3年に1度新規メンバーを募集し、講座生は年10回の養成講座を3年間受講後、本格的に音訳図書の作成作業にあたっています。講師は静岡県視覚障害者情報支援センターの登録ボランティアで、音訳指導員の資格を持った方を派遣してもらっています。また、毎年1回は修了生も含めた全ボランティアを対象に勉強会・交流会を開催しています。現在音訳資料は、年間平均15点程度を作成しており、これまでに作成した音訳資料は合計約230タイトル(カセットテープ含む)になります。コロナ禍で活動が休止されたり制限されたりすることもありましたが、障がいのある方たちの読書のため、少しずつでも音訳図書の作成作業を行っています。



受賞歴

平成26年度(平成27年2月)三島市生涯学習功労者表彰
平成28年度(平成28年11月)静岡県優良読書グループ表彰

静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)

【お話キャラバン(静岡県)】

私達のグループの活動は、平成16年7月より、静岡県立中央図書館「えほんのひろば」(現在の「どんぐりひろば」)で始まりました。以来、静岡県立中央図書館、市立図書館、地域子ども会、子育て支援センターを活動場所とし、時には高齢者施設でも活動を行いました。

私達の活動のコンセプトは2つあります。一つは絵本の楽しさを子ども達や親御さんと共有したい事。もう一つは、絵本の楽しさを引き出す表現を追求する事です。

絵本の読み聞かせには、色々なやり方があります。子どもが寝る前に親が読むものから始まり、コンサートライブのようなものまで様々です。この本はどんな風に料理したら美味しくいただけるかな?と考え、絵本の原作を損なわないように気を付けながら、相談して作ります。

今はますますデジタルな世の中になっていますが、受賞を励みに、これからもアナログな絵本の楽しさを子ども達や親御さんと一緒に共有していきたいと思います。



【どんぐりころころ(伊東市)】

「どんぐりころころ」は、四季折々の景色が湖面に映る『一碧湖』に隣接した伊東市立大池小学校にて、保護者及びOB、OGにより、平成14年に設立致しました。現在、14名のメンバーが、1年生から6年生の子供達に、毎月1～2回、朝読書の10分間、日本語及び英語の絵本の読み聞かせや木杵を利用した紙芝居をしったりしております。

新型コロナウイルス感染症予防対策で、教室の席の移動が制限されているため、後方の席の子供たちが見やすいよう、書画カメラを活用し、大型電子黒板に絵本を拡大して投影する等、子供たちが絵本の世界に集中出来るよう工夫しております。

また、年3回の反省会では、メンバー同士の情報交換を行い、改善すべき点を話し合い、子供たちが有意義な時間を過ごせるよう努力しております。

たった1冊の本が、宝物になる。そんな出会いがある事を願い、これからも諸先輩方が築いてくださった読み聞かせ活動を、子供たちと共に楽しみながら、続けて参りたいと思います。



【Peek-A-Boo（静岡市）】

私たちグループは平成20年より静岡市立中央図書館にて読み聞かせボランティアの活動を開始しました。今年で14年目になります。

絵本の読み聞かせを通じて、子供たちと親との豊かな触れ合いができるように絵本の素晴らしさを伝えることを目的に活動しています。

月1回の図書館読み聞かせ赤ちゃん向けお話し会コアアの活動や他に支援センターへの読み聞かせボランティアなどをやっています。

YouTubeなど活用して手遊びを勉強しお話し会で披露したり、ボランティアのあとは反省会を開き、日々読み聞かせ活動の向上に努力しております。メンバーには海外在住経験者と留学経験者がいるため外国の方にも積極的に話しかけコミュニケーションをとり読み聞かせに参加してもらうようにしています。

他にメンバーの中には手話ができる人がいますので、聴こえないお母さんやお子さんには手話やジェスチャーで絵本の読み聞かせに参加してもらっています。

絵本を通じてみんながつながる社会を目指したいです。

これからもずっと今のメンバーで活動を続けたいと思います。



【はらぺこあおむしのおはなし会(河津町)】

15年前、毎週木曜日の同じ時間、乳幼児の親子を対象としたおはなし会を始めました。『木曜日は図書館ね』と、乳幼児を持つママさん達の合言葉のような形で、おはなし会の存在が広がり、15年間、毎週たくさんの親子が参加してくれています。

年齢や月齢に合わせて、0・1・2歳児向きと2・3歳児向きが選べるように、時間を分けておはなし会を行っています。ママのお膝で絵本を見たり、童謡を歌ったり、わらべ歌で遊んだり、エプロンシアターやパネルシアターを参加型で楽しんだり、20分間の短い時間ですが、親子が楽しい時間を過ごせるように心がけています。また、この時間と場所が、同じくらいのお友達と出会うきっかけになるように、河津町で安心して子育てが出来ると思ってもらえるようにと考えています。

これからも私たちメンバーが健康に心がけ、絵本でつなぐ親子の時間のお手伝いを続けていきたいと思っています。

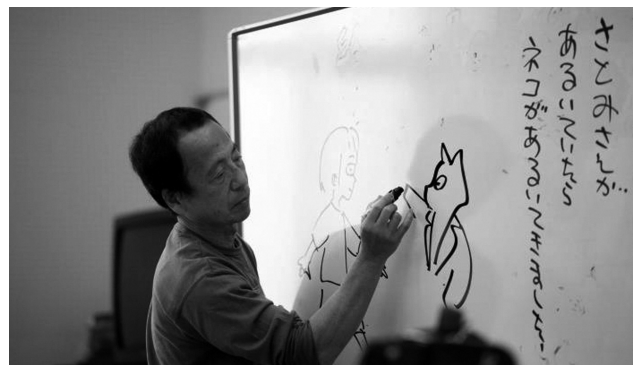


令和3年度静岡県図書館大会第2分科会参加報告

今年度の静岡県図書館大会は、令和3年11月8日から10日までの三日間に渡り、ZOOM配信によって開催されました。参加はZOOMのアカウント数が500アカウントの制限もあり、各市町の図書館及び団体からの事前申込制となりました。本稿では、大会二日目の第2分科会「子どもの読書活動」での鈴木まもる氏の講演「絵本と鳥の巣の不思議～鳥の巣が教えてくれること～」をご報告したいと思います。

鈴木まもる氏は、東京藝術大学美術学部工芸科を中退後、画家・絵本作家として歩まれ、鳥の巣研究家としてもご活躍されています。昭和61年より静岡県下田市に在住。主なご著書に『せんろはつづく』『黒ねこサンゴロウ』『ぼくの鳥の巣絵日記』、ご夫婦での共著による『ピンポンパス』など数多くの作品を上梓されています。

当日は、静岡県立中央図書館にお越しいただき、実際にご講演をしていただく形で配信しました。お話はホワイトボード・スライド等を駆



使し、裸足になってお話する躍動感あふれるスタイル。鳥の巣の実物を手に取りながら、時に笑いもありスタッフも大いに魅了されました。

ご講演では、「鳥が小さい命を育てるために作るのが「巣」である」とすれば、人間の大人が子どもの心が育つために作るのはなんだろう…と考えたとき、それが「絵本」だと思った。形は全然違うけれど、「小さい命が育つ」という部分では絵本も鳥の巣も同じではないだろうか。どちらも純粋な行動の結果だと感じている。」というお言葉が胸に響きました。

静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会報告

演 題：「読み聞かせと学校図書館」

講 師：本田 彰 氏

日 時：令和4年2月20日(日)13:30～15:30

会 場：静岡県立中央図書館 会議室

参加数：25名

今年の全体研修会は、コロナ禍、特にオミクロン株による感染の急拡大を踏まえ、県の基準で感染症対策を行い、定員も半数以下での開催となりました。講師には、日本学校図書館学会理事であり静岡県支部長の本田彰先生をお招きしました。先生は静岡市の小学校校長を歴任され、静岡県立中央図書館にもご在職されていました。

ご講演では、学校図書館法・学習指導要領と学校図書館・国語教科書・学校図書館からの発信・ボランティアと学校図書館についてお話いただきました。学校図書館は法で定められており、学校には必置であること、学習指導要領では学校図書館が教科指導で重要な位置づけであること、多くの文学作品に子どもたちがふれられるよう、国語教科書に工夫がなされていることなどを、丁寧にお話してくださいました。



また、子どもたちに最も身近な図書館として、司書教諭・学校司書の連携の中で、保護者や地域にも絶えず周知していくことの大切さや、ボランティアが本を選ぶ際におすすめのガイドブックの紹介など、多岐にわたるお話をいただきました。

講演後の質疑応答でも活発な意見交換がなされ、有意義な一日となりました。

静岡県読書推進運動協議会推薦図書

シニア世代へおすすめする本

『在宅ひとり死のススメ』

上野 千鶴子／著(文藝春秋 2021.1)

『これでおいしい』

篠田 桃紅／著(講談社 2021.3)

『大人の流儀10 ひとりをたのしむ』

伊集院 静／著(講談社 2021.3)

若い人へおすすめする本

『ぼくモグラキツネ馬』

チャーリー・マッケジー／著(飛鳥新社 2021.3)

『福島モノローグ』

いとう せいこう／著(河出書房新社 2021.2)

『未来のきみを変える読書術』

なぜ本を読むのか？

苫野 一徳／著(筑摩書房 2021.9)